2023 年度事業報告書

2023 年　4 月　1 日から　　2024 年　3 月　31 日まで

NPO 法人アカツキ

事業の実施と成果に関する事項

①非営利団体・市民団体及び社会的企業等を対象とした、対話と議論を共に育むコンサルティングと、その技術を社会に広く展開するための販売事業

事　業　内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
①-1）ファンドレイジング・NPO 法人事務・内部コミュニケーションに関する伴走型コンサルティング支援	通年	福岡県 佐賀県 長崎県 大分県 山形県 東京都 神奈川県 岐阜県 京都府 大阪府	5 人	NPO 16 団体	6,750,898
①-2）コラボステーション福岡の専門相談及び研修会等企画・実施（福岡県委託）	通年	福岡県	4 人	NPO 82 団体（延べ） 個人 136 人	

①-1）これまで多かった中期計画策定やファンドレイジング、認定取得支援に加え、会計不正やハラスメント対応等、組織内部のコミュニケーション不足から問題が表面化した案件に数件関わった。

①-2）新たに政策提言相談会と動画配信相談会を提案・実施したが、いずれもニーズがあることがわかった。特に動画配信相談はハードルを下げたことで、団体内の足並みを揃える機会にもなった。

②市民社会を担う人材及び団体の育成にかかるセミナー・研修・ワークショップ等の実施とともに、

互いに支え合うコミュニティを構築する事業

事　業　内　容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(円)
②-１）NPO 法や組織運営、ふりかえり評価に関するセミナーやワークショップの開催、講師登壇	通年 6 回	福岡県 東京都 山口県 兵庫県 全国	３人	NPO の理事・職員、会社員、行政職員等 約 1200 人	2,874,483
②-２）解決しない相談会　オンライン番組配信	4～6 月 4 回	全国	2 人	一般市民 約 200 人 （延べ）	
②-３）福岡市共働促進アドバイザー（福岡市委員就任）	7～3 月 6 回	福岡市	1 人	福岡市内の NPO・市役所	
②-４）市町村センター等機能強化支援事業（福岡県委託）	8～2 月	福岡県	3 人	福岡県内の市町村センター 69 名 4 自治体	
②-５）アウトリーチ・ハンズオンによる NPO 支援事業（福岡市委託）	8～3 月	福岡市	４人	NPO 26 団体	
②-６）休眠預金制度・実行団体と企業の九州マッチング会	9～12 月	福岡県 東京都	5 人	九州圏内の休眠預金採択団体 21 団体と企業等経済団体 33 社	
②-７）多様な主体による協働促進・NPO 活動現場視察事業（福岡県委託）	12～3 月 2 回	福岡県	3 人	NPO の理事・職員、会社員、大学生、行政・関係機関職員 等 約 40 人	

②-１）NPO 法制定の中心となった松原明氏を招き、NPO 法の勉強会を自主開催。県内３つの所轄庁（福岡市・福岡県・北九州市）の担当者が参加し、その責任や権限範囲を知ってもらうことができた。

②-２）視聴者からのお悩み相談のお便りを読み上げ、解決やアドバイスではなく感想やコメントのみを行う YouTube 配信を行った。内容や立て付けの見直しのため、今年度は３回のみの開催となった。

②-３）福岡市の「共働テーブル」施策がより多くの NPO に活用される周知のための、市職員が取材するインタビュー記事について、編集方針に対するコメントや取材先の提案を行った。

②-４）県内市町村センター等の担当職員が集まる場で、ふりかえり評価や先進事例の紹介により、知見の共有を行なった。ニーズのある地域にはアドバイザーとして派遣され、課題の整理を手伝った。

②-５）昨年度の調査とモデル事業から、「ヨソはどうしてる？」と「お宅訪問」をコンセプトに、現場 NPO 同士の対等で継続的な関係性づくりを行い、ノウハウよりも安心感という声が得られた。

②-６）マッチング会に参加する企業と実行団体双方への事前オリエンテーション設計と登壇に加え、地域登壇者の紹介、当日の運営補助やセッティングまでを担い、参加 NPO や資金分配団体に喜ばれた。

②-７）フードバンク運営団体・中山間地域の棚田保全団体の地域活動の現場に、バスツアーを企画し訪問した。新規の取り組みだったが、ガイドの漏れや事故もなくアンケート結果は高評価であった。

③市民活動とそれらをとりまく社会環境の調査・研究及びその成果物の発信・出版事業

事　業　内　容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額(円)
③-1）ナラティブアプローチを活用した草の根 NPO「ふりかえり評価」普及の	通年	福岡県 岐阜県 福島県	２人	NPO の 理事・職員・ 監事、支援	986,901

ためのツール開発事業		東京都		者、助成機関等 約 45 人、 6 団体	

③-1）2019 年から開発していた「ふりかえり評価」のツールと解説マンガを完成させた。お披露目を兼ねたイベントでは実践者が解説、対面イベントでは参加者にも体験してもらうことができた。

④市民活動団体の経営を支援するための助成金拠出及びそれに資する財団・企業・自治体等と連携した助成プログラムの開発・改善事業

事　業　内　容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額(円)
④-1）立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」による助成金拠出	通年	福岡県 東京都	3 人	NPO 4 団体	1,153731
④-2）他助成機関に対するプログラム開発と改善支援	通年	福岡県	2 人	助成 5 機関	

④-1）6 期目となったこともあってか、AKBN ファンドの趣旨を深く理解した、目的や使徒が明確な団体からの応募が増加した。また、財政規模や知名度に関わらずニーズがあることが見えてきた。

④-2）自治体の補助金審査に加え、民間団体からの依頼があった。新規助成金制度の設計に携わったが、対象や目的設計レベルで内部の調整が整わず、リスクを注意喚起した状態で終了した。

＊事務局

・遠隔勤務の職員が増えたため、週１回の事務局ミーティングとは別に、月１回対面での事務局共有会を実施。目の前のタスク処理ではなく、活動姿勢の共通認識をつくる時間と位置付けて継続した。

・法人設立１１周年企画として、数年ぶりに屋内対面での映画上映イベントを開催、それぞれの感想を共有することを通して会員同士の交流を行い、理事からも日頃の感謝を伝えることができた。

・「立ち止まり対話するための助成金・AKBN ファンド」について、報告書などから団体の声が届き、前年度に続き 30 万円と新規で 20 万円、合計 2 件の個人大口寄付を頂くことができた。

・正会員とのコミュニケーションをより円滑にとれるよう、正会員と職員の LINE グループを作成。正会員の会や周年イベント、総会の日程など、より細やかに調整が可能となった。